

お願いしまる。
坂入さん釣らせて
ください!

鯉釣りはポイントとエサで勝負が決まる

第5回
鯉川編

簡単な仕掛けとエサで
鯉釣りを楽しもう!



N名人とS名人の吸い込みエサに動物性の「鯉師」と匂いの強烈な「荒びきさなぎ」、くわせは「くわせコーン」を使った

今回より、坂入一敏インスト
ラクターがN、S両名人(迷人)
の専属コーチ就任となって、全
国の釣り場を釣り歩きます。し
かし、二人の名人は素直に坂入
さんのアドバイスを聞いて、鯉
を釣り上げることができるとど
うか。両名人に乞う御期待!

6月13日、北浦の大洋川河口付近で、
坂入さんとS名人は、鯉の吸い込み釣り
とウキ釣りを試みた。しかし、鯉の泡付
けはあるものの食いが悪く、釣れるのは
二コイのみであった。翌日の取材日もあ
まり期待できそうもないので、坂入さん
が一週間前、ウキ釣りで86cmの大物を上
げた鯉川に移動することになった。

場所を移動する時、大いに役に立つの
がウキ釣りだ。水の動き、ジャミの多さ
など、ウキ釣りの繊細なアタリで、魚の
活性、食いのある程度判断できるからで
ある。

鯉釣りのポイントとは?

鯉釣りは、一に場所、二にエサ、三に仕
掛け」と言われるようにまずポイント選び
で釣果が決まる。河川か、湖沼か、それと
も山山湖であるか、場所によって多少ポイ
ントは違うが、鯉の釣れる所は、水深があ
り水温が安定している所、エビや貝類など
のエサが豊富で、障害物などで身の安全を
守れるポイントである。

ポイントの目やすとして、河川では、橋
脚、テトラ回り、乱杭、流れ込みなどであ
る。湖沼では、岬の先端回り、船溜まり、
水門、乱杭、オタ、ヨシ、藻などの周辺で
ある。山山湖やダム湖では、岬の先端回り、
ワンド、川の流れ込みなどがある。

ポイントは春の乗っ込み、秋の荒食いな
ど季節によって変わる。まだ水温の低い春
は日当たりの良い浅場、真夏は日陰、秋か

ら冬と寒くなるに従って深場のポイントに変
わる。ポイントを選ぶ時は気温、水温、水
の状態、風など、天候によって釣果が大きく左
右されるので注意しなければならぬ。

山山湖やダム湖のポイントの見方として、
岬の先端など周囲の地形から湖の水深を予測
することができる。山の斜面が急ならば比較
的水深があり、なだらかならば水深は浅い。
ワンドは好ポイントだが、日陰で水通しが悪
いと鯉がいても食わないことがある。絶好の
ポイントである水の流れ込みは、普段は水が
なくても雨などで流れができる所がポイント
になる。

山山湖やダム湖は平野の湖と違い、車から
降りてすぐ竿を出せる釣り座も少なく、季節
により、水温、水位の変動が激しく、難しい
のでビギナーにはあまりお勧めできない。



坂入さんは「鯉パワー」など、植物
性配合エサを主体に使ったエサ
で大物を狙う



6月6日、坂入さんは、鯉川の下幡
木3号水門前で、ウキ釣りでは大
型の86cmの鯉を上げた

鯉釣りはポイントが最も重要

翌日早朝、鯉川左岸の下幡木 鯉川橋
(水郷有料道路) 上流のトイレもある公
園の駐車場でN名人が合流した。鯉川は
北浦から外浪逆浦への流れで水通しも良
く、ダンゴエサで超大物が数多く釣られ
ている。昨年7月に鯉川橋下流で、112cm
の巨鯉も釣れている。この近辺は外浪逆
浦への流れ込み、岬の先端、橋脚、水門、
船溜まり、テトラ、ヨシなどがあり、ど
こでも実績がある。しかし、水の動き、
風向きによって、その日の釣れるポイン
トが変わるのだ。

橋脚回りのポイントが川筋に近くて水
通しも良く、前日も90cm台が釣れている。
しかし、そこには地元の人師が竿を出
していた。(ポイント選びにはへら釣り
が一つの目安になる。へら師は同じ場所
に釣り座を構えることが多く、寄せエサ
に鯉が寄って来るからである。) 仕方が
ないので、下幡木3号水門を挟んで下手
に坂入さん、上手にS名人とN名人が竿

鱈川のポイント

となみさかうら
外浪逆浦



鱈川の左岸の下幡木、向こう側が外浪逆浦

ヨシ

ヨシ

このポイントで、
昨年7月に112cmの
巨鯉が釣れた

至潮来

鱈川橋(水郷有料道路)

至神栖

徳島

本流

鱈川



鱈川橋(水郷有料道路)の橋脚周り

× ×

× ×



駐車場前の下幡木3号水門

常陸利根川の水門の
開閉で流れが変わる



六脚ブロックのポイント



神栖鱈川ドックのヨシ回り

水深4~5mライン
カケアガリ

岸から
約20m

鱈川
水門

テトラ

× ×
ヨシ

神栖
鱈川ドック

車止め

公園

坂入

トイレ



S名人

ポンプ場

N名人

車止め

しもはたぎ
下幡木



神栖鱈川ドック

を出すことにした。

「水門の右で90cm台の実績がある」と聞いた二人は、90cmメーターオーバーを釣った気分になって意気込んでいる。

ポイントを選ぶ時、水門や乱杭など目に見える所は一つの目安になるが、カケアガリなど目に見えない水中の状態はなかなか解らない。両名人も20号のオモリを投げ、秒数を数えて水深を計り、オモリを引きずって底を探ったり、カケアガリを探すが、経験の浅い二人にはまだ底の状態が解るはずがなかった。



動物性の「鯉師」にさらに「荒びきさなぎ」の強烈な匂いで数釣りを狙うS名人

坂入さんはオモリを投げて底を探つて

から、鯉川が初めての二人に「岸から15〜20m、水深5〜6mのカケアガリを狙ったら良い」とアドバイスする。

3人が竿を出した下幡木3号水門前は、なぜか正面の風よりも背から吹く南東の風の方が実績があるようだ。鯉釣りでは、一般的に暖かい南風が正面から吹いた方が釣れると言われている。その理由は風が吹いて水が攪拌され、ゴミや鯉のエサとなるプランクトンが岸手前に寄って来るからである。しかし、風裏でも



「N名人の場所は、右に行くほど水深ラインが遠くて水通しも良いので、25〜30mラインを攻めてみたらどうか？」と言う坂入さんのアドバイスでやや遠投を試みるN名人

N名人のウキ釣りにヒット！手竿が大きな曲線を描く、果たして鯉かどうか？



水の動きなどの条件が揃えば釣れることがある。

坂入さん、S名人とN名人は、吸い込み釣りの仕掛けを投入後、「浮子鯉」を使って得意のウキ釣りに専念する。この辺は水深が2mほどあるから、釣りやすいし、大物が回遊して来る予感がする。しかし、常陸利根川の水門が開けられたので、水の流れが強過ぎてウキが安定せず釣りにならない。不規則に水の動き、潮目が変わり、ウキのアタリが取りづらいいのだ。そんな時、坂入さんはタックルはそのままで、ウキを外してミヤク釣りに変え、穂先で微妙なアタリを取って見事に鯉を釣って見せた。さすがインスタラクターである。

エサの違いが釣果の差に出る

今回のN名人とS名人の吸い込みエサは「鯉師」と「荒びきさなぎ」で、多くの種類を混ぜないどちらかといえばピクナらしいエサである。大物を狙うとい

うより「荒びきさなぎ」の強烈な匂いで鯉の数釣りを狙う目論みである。坂入さんが80台の大物を「くわせコーン」で釣ったので、今回はくわせに「手づくり辛」ではなく「マネして」「くわせコーン」を付けた。

坂入さんは大物狙いなので、植物性配合エサを主体にしたエサである。「鯉パウ」3、「いも吸い込み」3、「鯉武蔵」1、「スーパー鯉むぎ」1の割合で混ぜたベースエサに、「ヘラ用のエサ」「もじり」1〜2を加えて仕上げたものである。「もじり」はエサを早くバラケさせ、匂いを遠くまで運び、鯉を寄せ食い気をお



N名人が吸い込み釣りで釣った30cmの鯉。大型が食う前に食欲旺盛な小型の鯉が、市販の吸い込み仕掛けに食い付いてきた

おって魚の活性を上げる効果がある。さらにアタリがない時、動物性の匂いで食い気を誘うために「鯉のぼり」1〜2、「タニシ吸い込み」1〜2、または「鯉師」1〜2を加えることもあるそうだ。日中は陽射しが強いが、南東の涼しい風があり、暑さを感じさせない。気温23度、鯉川の水温は21度もあり、水が多少濁り、岸寄りの水面にはアオコがゆっくりに流れていて、水の状態はあまり良いとは言えない。

型の「巨鯉」、数の「鯉師」を実証した

午前10時、アタリもなく、潮目が少し遠くになった。「N名人の場所は、右に行くほどカケアガリが遠くて水通しも良いので、25〜30mラインを攻めてみたらどうか？」と坂入さんがアドバイス。その通りにやや遠くに投げ込んでいたN名人の吸い込み釣りにアタリ、取り込んだのは太った可愛いらしい30cmの鯉だった。その後、S名人がようやく60cmの鯉を釣り上げ大喜び。恐らく二人がカニ粉魚粉などの動物性タンパクを多く含んだ



坂入さんはウキを外し、ウキ釣りからミヤク釣りに変え、穂先で微妙なアタリを取り見事に鯉を釣り上げた

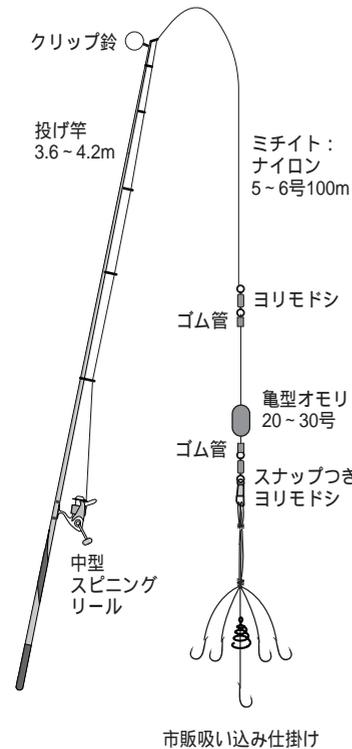


今回の釣果、鯉、マブナ、アメリカナマス、ボラなど大漁だった。植物性の「鯉パワー」を主体に使った結果、坂入さんは見事80台の大体を釣り上げることができたのだ

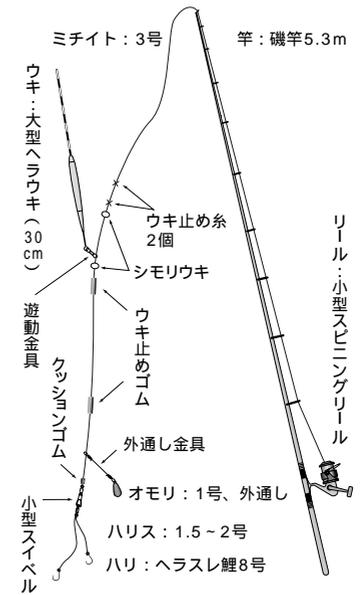
S名人が吸い込み釣りで60cmの鯉を釣り上げた。「鯉師」のカニ粉、魚粉などの動物性タンパクと「荒びきさなぎ」の強烈な匂いの効果か？



吸い込み釣り中・小型



S名人のウキ釣り仕掛け



残念ながら鱈川のぬしからの魚信はなかった。

今回の釣果は、N名人はウキ釣りで鯉1、ボラ2、アメリカナマス1、吸い込み釣りで鯉3とマブナ1匹だった。S名人はウキ釣りで鯉3、ボラ1、アメリカナマス1、吸い込み釣りで鯉2匹だった。またしても大漁で大成功であった。

この結果を見ても解るように、二人が使った「鯉師」はその集魚効果で早くアタリが取れ、数釣り狙えるエサであることを実証した。

エサの違いが型の差にハッキリと出るといことが解ったことも大収穫であった。そして、中・小型狙いの市販の吸い込み仕掛けは、圧倒的にハリ掛かりが良いことが解った。

型を釣るのは坂入さんのエサを、中・小型の数を釣るのは両名人のエサを参考にすると良いだろう。

鱈川もなんとか制覇し、今回は難しいと言われる山上湖がダム湖の釣りに、両軸リールでチャレンジしようと燃える両名人であった。

「鯉師」と「荒びきさなぎ」の強烈な匂いで狙ったので、大型が食う前に食欲旺盛な小型の鯉が、中、小型用の市販の吸い込み仕掛けで釣れたのだらう。

坂入さんは早朝に吸い込み釣りで、70台と80台の大体を釣り上げた。ヒットポイントは両名人と同じ、水深4~5mのカケアガリだった。ほとんど同じヒットラインのポイントで、小型と大型の差がはつきり現れたのは、坂入さんと二人のエサの違い、配合の違いが出たものと考えられる。

坂入さんのエサはいつも釣行前に作って冷蔵庫保存している「鯉パワー」などを入れて作った、バラケの早いダンゴである。

その後、坂入さんと両名人は、ウキ釣りで水門開閉による水位変動、水の流れの変化に苦戦しながらも釣果を重ね、それぞれが鯉、ニゴイ、マブナ、アメリカナマス、ボラの五目釣りを堪能した。

坂入さんは仕事で先に帰ったが、二人は一発大物が釣れそうな予感がしたので、夕まずめまで粘ってみた。しかし、